

会議議事録

事業名	平成26年度 「職業実践専門課程」の推進を担う教員養成研修モデルの開発・実証
代表校	一般社団法人 全国専門学校教育研究会

会議名	第2回 インストラクショナルデザイン分科会
開催日時	平成26年10月10日(金) 14:00~16:00(2h)
場所	東京ガーデンパレス 3F「桂」
出席者	<p>①ID分科会委員 上里政光(学校法人KBC学園)、中島慎太郎(学校法人有坂中央学園)、岡村慎一(専門学校YICグループ)、富田伸一郎、山口典子、日暮薫(株式会社ウチダ人材開発センタ)、井戸和男(一般社団法人日本産業訓練協会)、三宅英明(学校法人昇陽学院) (計8名)</p> <p>②評価委員 ・小野紘昭(一財)職業教育キャリア教育財団 啓明学園)</p> <p>③オブザーバー ・永井真介(富山情報ビジネス専門学校) ・伊藤慎二郎(学校法人穴吹学園) ・飯塚正成(有限会社ザ・ライスマウンド) (計3名)</p> <p>④事務局 ・飯塚久仁子(有限会社ザ・ライスマウンド) (計13名)</p>
議題等	<p>1) 開会 今回より参加2名自己紹介。</p> <p>2) 研究事業検討</p> <p>①成果物についてウチダ人材開発センタより説明。(別紙資料) ・クラウドを使用した事前アンケートのサンプル紹介(Google Docs)。次年度は、課題も事前提出する予定。 ・事前のeラーニングで紹介する企業の事例は、今年度は事例紹介のみ。次年度は担当者のインタビューも盛り込む予定 ・集合研修(12月18日~19日12時間)は、事前に学んだ知識、課題を使ってのディスカッション、グループワーク中心。アクティブラーニング形式で進める。 ・事後は、今年度はアンケート形式で実施した事例がある教員は提出。</p> <p>②企業の事例についての意見</p>

- ・ NEC、キャノン、JTB が候補だが、他の事例もあれば入れたい。
 - ・ 中堅企業、美容院、医療の事例も必要。
 - ・ 医療では、鹿児島大学、愛媛大学、仙台で ID を取り入れた事例あり。
 - ・ 今後、看護・介護の分野では ID が重要となってくる。訪問看護・介護では医師不在の中で主体性が必要。ID で学ぶことが主体性を伸ばすことにもなる。
- ③e ラーニングについて
- ・ 今回 e ラーニングを取り入れる意義は、「反転授業」である。集合研修で知識のインプットを行うと時間が勿体ない。集合研修でしかできないこと、つまりグループワーク、ディスカッション、フィードバックなどをおこなう。
- ④職業実践専門課程の推進でなぜ ID を行うか
- ・ ID は目標を明確にして PDCA (ADDIE モデル) を回していく。PDCA は企業での仕事の基本。ID によって組み立てられた授業で学ぶことが学生にとって PDCA を回す基本を身につけることになる。
 - ・ 「教育課程編成委員会」でも ID による学習の目標、カリキュラムだと企業の委員にも理解してもらいやすい。
 - ・ 企業側から「欲しい人材」=「目標」を提示してもらい、それを ID の手法で授業に落とし込む。
 - ・ ID の目標が学生の企業へ提出するポートフォリオにもなる。
- ⑤事前アンケートについて
- ・ 今回の実証講座に参加する教員だけではなく、参加しない教員からのアンケートをとれば、非常によいデータとなる。
 - ・ プロファイリングが重要。あとから、分析できるように項目を設定する。(例. 学年、専門課程 or 一般過程、資格取得かどうか、技能 or 知識、必修 or 選択か・・・などなど)
- 岡村先生に相談の上、ウチダ人材開発センタ作成。
- ⑥事前課題、事後事例
- ・ 数多く集まってくれば、学科ごとにわけてアーカイブ、データベース化できる。
- ⑦11月12日実施委員に向けて
- ・ ID を説明できるように、ある程度できあがった e ラーニングを提示 (アクティブラーニング分科会はビデオを作成)。
 - ・ 説明するために、職業実践専門課程と ID の関係を説明する「俯瞰図」が必要。
- ウチダ人材開発センタ作成。

<p>・事前アンケートはここで許可を得る必要がある。</p> <p>3) 今後のスケジュール 分科会予定 すべて 14:00-16:00 第3回→10月30日(木) 第4回→11月10日(月) 第5回→12月15日(月) 第6回→2月6日(金) 実証講座:12月18日(木)～19日(金) 実証委員会:11月12日(水) 11月18日(一ヶ月前)に事前アンケート、事前学習(eラーニング)、実証講座の参加者募集の案内を出す。参加者絞り込みは先着順など。</p>
--

以上